

三重県経済の現状と見通し < 2019年12月 >

1. 景気判断 一覧表

| 部門 | 個別項目 | 基調判断(方向等) | 基調判断の 前月との 比較(注1) | 水準評価 (注2) |
|------|--------|--|-------------------------|--------------|
| | | 詳細 | | |
| 総括判断 | 景気の現状 | 足踏み感 個人消費が消費増税の影響で落ち込んでいるほか、輸出の低迷を背景に製造業の生産活動も伸び悩んでおり、景気は総じて足踏みしている。 | → | |
| | 当面の見通し | 弱い伸びが続く見通し 県内製造業の弱い動きが続くほか、消費増税を受けて個人消費も一時的に減退し、弱い伸びとなる見通し。 | → | |
| 家計部門 | 個人消費 | 持ち直しの動きに足踏み 大型小売店販売額(全店ベース)は、3か月振りの前年比減少 | ↘ | |
| | 住宅投資 | 弱含み 住宅着工戸数は、2か月振りの前年比減少 | → | |
| | 観光 | 一服 県内施設延べ宿泊者数は、2か月連続の前年比減少 | ↘ | |
| | 雇用・所得 | 高水準ながらも弱めの動き 有効求人倍率(季節調整値)は、3か月連続の前月比低下 | → | |
| 企業部門 | 企業活動 | 一段と弱含み 鉱工業生産指数は、7か月連続の前年比低下 | ↘ | |
| | 企業倒産 | 小康状態 倒産件数は、2か月振りの前年比減少 | → | |
| | 設備投資 | 一服 非居住用建築物着工床面積は、7か月連続の前年比減少 | → | |
| 海外部門 | 輸出 | 弱含み 四日市港通関輸出額は、6か月連続の前年比減少 | → | |
| 公共部門 | 公共投資 | 持ち直し 公共工事請負金額は、3か月連続の前年比増加 | ↗ | |
| その他 | 物価 | 伸び悩み 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、前年比横這い | → | |

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、:晴、|:晴~曇、:曇、|:曇~雨、:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

| | |
|---------|--|
| お問い合わせ先 | 三十三総研 調査部 佐藤 |
| | 電話:059-354-7102 Mail:33ir@miebank.co.jp |

2. 個別部門の動向: 家計部門

| | | | |
|------|-------------|-------------|---|
| 個人消費 | 持ち直しの動きに足踏み | 基調判断の前月との比較 | ↘ |
| | | 水準評価 | |

現状

個人消費は、持ち直しの動きに足踏み。

個人消費の動向を支出者側からみると、10月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比 4.9%と3か月振りの減少(図表1)。なお、勤労者世帯可処分所得(津市)は同+0.9%と2か月連続の増加(前掲図表1)。

個人消費の動向を販売者側からみると、10月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースでは前年比 1.9%、既存店ベースでは同 5.6%とそれぞれ3か月振り、2か月振りの減少。全店ベースを商品別にみると、軽減税率が適用される飲食料品(同+3.3%)は増加した一方、消費増税前の駆け込み需要の反動により、衣料品(同 19.4%)や、化粧品などのその他の商品(同 10.8%)が減少。

11月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,897台(前年比 15.1%)となり、前年比で2か月連続の減少(図表3)。車種別にみると、消費増税前の駆け込み需要の反動減が続き、普通車(同 23.0%)、小型車(同 20.8%)、軽乗用車(同 2.2%)がそれぞれ2か月連続の減少。

見通し

東海地域の現状判断D.I.(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、11月の家計部門の水準は39.8と前月(35.8)から改善し、消費増税の影響がやや和らいだ模様。ウォッチャーの声では、「消費増税の影響がやや薄れてきた」といった声や、「プレミアム付商品券の効果もあって、売上が伸びている」といった声が聞かれた。2~3か月先の景気の先行きに対する判断D.I.についても、46.3と2か月連続で改善しており、駆け込み需要の反動減が想定よりも少なくなるとの見方や年末に向けた需要増への期待感が、押し上げに作用している。個人消費の先行きをみると、消費増税前の駆け込み需要によって急速に盛り上がった後、その反動減や天候不順の影響により減少しているものの、駆け込み需要の規模は前回2014年の増税時と比べて小さかったこと、増税後の物価上昇が限定的(P.7参照)であり実質所得がプラスを維持していること、などを踏まえると、落ち込みは比較的短期間のうちに一巡すると予想され、再び緩やかな増加基調に復帰する見通し。

10月 勤労者世帯・消費支出

287千円 前年比 4.9% (3か月振りの減少)

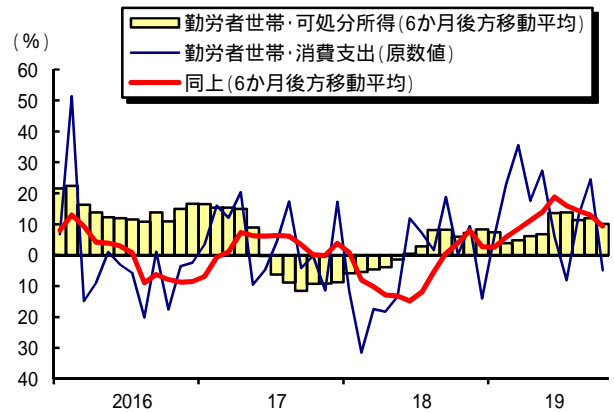
10月 大型小売店販売額

全店 前年比 1.9% (3か月振りの減少)
 既存店 前年比 5.6% (2か月振りの減少)

11月 新車乗用車販売台数<含む軽>

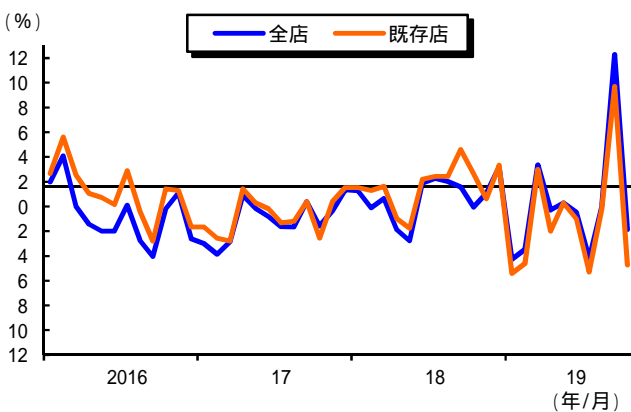
5,897台 前年比 15.1% (2か月連続の減少)
 ・普通車 前年比 23.0% (2か月連続の減少)
 ・小型車 前年比 20.8% (2か月連続の減少)
 ・軽乗用車 前年比 2.2% (2か月連続の減少)

図表1 津市消費支出等<前年比>



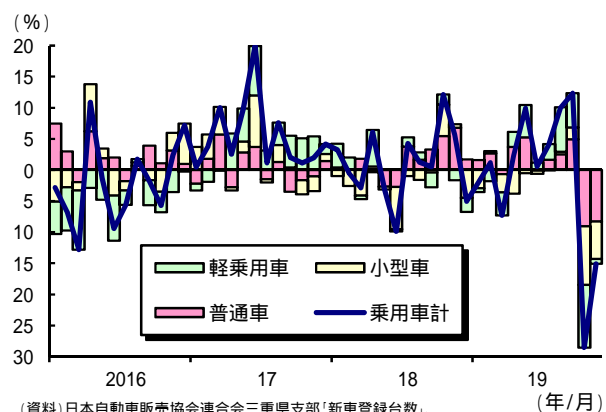
(資料)総務省「家計調査」 (年/月)

図表2 大型小売店販売額<前年比>



(資料)経済産業省「商業動態統計」

図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



(資料)日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、全国軽自動車協会連合会三重事務所「銘柄・形状別新車月報」

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------|--------------------|-------------------|------|------------|-----|------|-----|------------------|-----|------|-----|------------------|-------|----|-----|-------------------|-------|-----|-----|-------------------|--|--|
| 住宅投資 | 弱含み | 基調判断の前月との比較 | ⇒ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 水準評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>現状 住宅投資は、弱含み。 10月の住宅着工戸数は、807戸（前年比 3.4%）となり、前年比で2か月振りの減少（図表4）。利用目的別にみると、分譲住宅（同 +15.2%）が8か月振り、貸家（同 +2.7%）、給与住宅（同 +66.7%）がそれぞれ2か月連続で増加したものの、持家（同 10.0%）が大幅に減少。 市町別では、津市が131戸（同 18.1%）、伊勢市が34戸（同 35.8%）とそれぞれ減少。</p> <p>見通し 消費増税前に駆け込み需要がみられた持家は、当面、減少トレンドが続くと予想されるほか、貸家についても金融機関による融資条件の厳格化により押し上げは見込み難く、弱含んで推移する見通し。もっとも、今回の増税は税率の引き上げ幅が前回より小さく、政府の需要平準化策も講じられたことから、駆け込み需要の盛り上がりは限定的で、大幅な落ち込みは回避される公算。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>10月 住宅着工戸数</p> <table border="1"> <tr> <td>807戸</td> <td>前年比</td> <td>3.4%</td> <td>(2か月振りの減少)</td> </tr> <tr> <td>・持家</td> <td>442戸</td> <td>前年比</td> <td>10.0% (2か月振りの減少)</td> </tr> <tr> <td>・貸家</td> <td>269戸</td> <td>前年比</td> <td>+2.7% (2か月連続の増加)</td> </tr> <tr> <td>・給与住宅</td> <td>5戸</td> <td>前年比</td> <td>+66.7% (2か月連続の増加)</td> </tr> <tr> <td>・分譲住宅</td> <td>91戸</td> <td>前年比</td> <td>+15.2% (8か月振りの増加)</td> </tr> </table> | | 807戸 | 前年比 | 3.4% | (2か月振りの減少) | ・持家 | 442戸 | 前年比 | 10.0% (2か月振りの減少) | ・貸家 | 269戸 | 前年比 | +2.7% (2か月連続の増加) | ・給与住宅 | 5戸 | 前年比 | +66.7% (2か月連続の増加) | ・分譲住宅 | 91戸 | 前年比 | +15.2% (8か月振りの増加) | <p>図表4 新設住宅着工戸数 < 前年比 ></p> <p>(資料) 国土交通省「建築着工統計」 (年/月)</p> | |
| 807戸 | 前年比 | 3.4% | (2か月振りの減少) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・持家 | 442戸 | 前年比 | 10.0% (2か月振りの減少) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・貸家 | 269戸 | 前年比 | +2.7% (2か月連続の増加) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・給与住宅 | 5戸 | 前年比 | +66.7% (2か月連続の増加) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・分譲住宅 | 91戸 | 前年比 | +15.2% (8か月振りの増加) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----------|--------------------|------------------|-------|------------|------|-------|-----|------------------|---|--|
| 観光 | 一服 | 基調判断の前月との比較 | ↘ | | | | | | | | |
| | | 水準評価 | | | | | | | | | |
| <p>現状 観光は、一服。 9月の三重県内施設延べ宿泊者数は、640千人泊（前年比 10.0%）となり、前年比で2か月連続の減少（図表5）。外国人宿泊者数についても18千人泊（同 22.8%）となり、前年比で6か月振りの減少。相次いだ台風が下押しに作用したとみられる。</p> <p>見通し 上皇陛下の天皇退位や天皇陛下の即位に関連した行事で注目を集めている「伊勢神宮内宮」が、ネットで行き方を調べる経路検索サービス「ナビタイム」の2019年検索総合ランキングで、初めて全国1位を獲得。天候不順を背景に足元で増加傾向に歯止めがかかっているものの、伊勢・志摩周辺の観光施設はにぎわっていることから、11月以降は再び持ち直す見通し。</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>9月 県内施設延べ宿泊者数</p> <table border="1"> <tr> <td>640千人泊</td> <td>前年比</td> <td>10.0%</td> <td>(2か月連続の減少)</td> </tr> <tr> <td>・外国人</td> <td>18千人泊</td> <td>前年比</td> <td>22.8% (6か月振りの減少)</td> </tr> </table> | | 640千人泊 | 前年比 | 10.0% | (2か月連続の減少) | ・外国人 | 18千人泊 | 前年比 | 22.8% (6か月振りの減少) | <p>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</p> <p>(資料) 国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)</p> | |
| 640千人泊 | 前年比 | 10.0% | (2か月連続の減少) | | | | | | | | |
| ・外国人 | 18千人泊 | 前年比 | 22.8% (6か月振りの減少) | | | | | | | | |

| | | | |
|-------|--------------|-------------|---|
| 雇用・所得 | 高水準ながらも弱めの動き | 基調判断の前月との比較 | ⇒ |
| | | 水準評価 | |

現状

雇用・所得情勢は、高水準ながらも弱めの動き。

10月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.58倍(前月比 0.02ポイント)と3か月連続の低下。一方、新規求人倍率(季節調整値)は、2.29倍(同+0.12ポイント)と3か月振りの上昇(図表6)。

10月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比 4.5%と3か月連続の減少(図表7)。業種別では、製造業(同 16.1%)は、輸送用機械(同 53.1%)や化学工業(同 63.3%)などで減少。非製造業では、サービス業(他に分類されないもの、同+7.9%)は増加したものの、卸売業、小売業(同 27.9%)や建設業(同 5.6%)などが減少。

9月の所定外労働時間指数は、前年比±0.0%と横這い。一方、名目賃金指数(同+1.6%)は3か月連続の上昇で、うち、きまって支給する給与(同+1.6%)は9か月連続の上昇(図表8)。

見通し

先行きの雇用をみると、建設や運輸、飲食サービス、介護といった非製造業では人手不足の状態にあるものの、生産活動の停滞から製造業では求人を控える動きが出ており、雇用の拡大ペースは鈍化する見通し。東海財務局津財務事務所「法人企業景気予測調査」によると、12月末の従業員数判断BSIの見通しは全産業ベースで33.3の「不足気味、超となり、9月末時点(35.3)から小幅に改善。

所得については、人手不足が賃金の上昇要因となる一方、景気に対する不安感から企業が人件費を抑制する可能性もあり、概ね横這いで推移すると予想。なお、12月10日に支給された三重県職員の期末・勤勉手当(冬のボーナス)は、平均支給額が85万2,167円で、昨年より 4.9%減少。

10月 求人倍率<季節調整値>

有効求人倍率 1.58倍
前月比 0.02ポイント (3か月連続の低下)
新規求人倍率 2.29倍
前月比 +0.12ポイント (3か月振りの上昇)

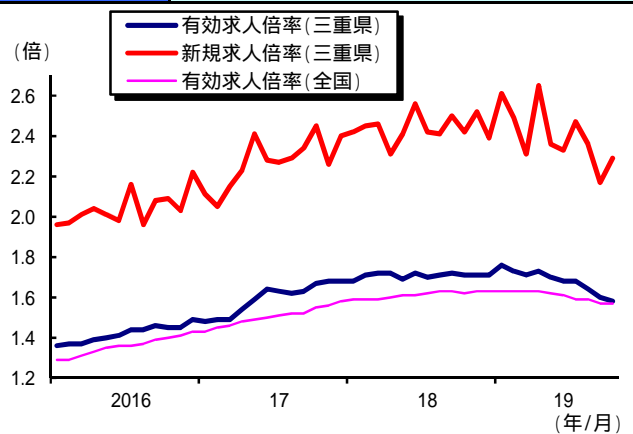
10月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

前年比 4.5% (3か月連続の減少)

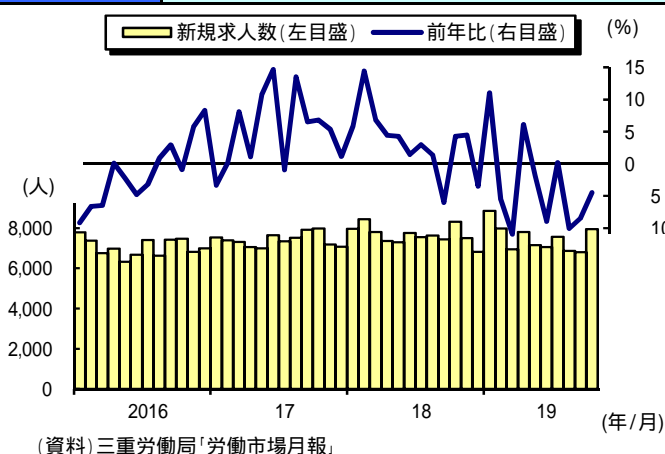
9月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

所定外労働時間指数
前年比 ±0.0% (横這い)
名目賃金指数
前年比 +1.6% (3か月連続の上昇)
きまって支給する給与
前年比 +1.6% (9か月連続の上昇)

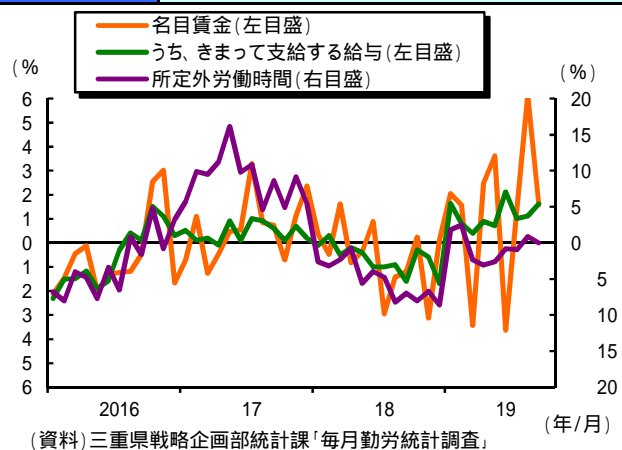
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



3. 個別部門の動向: 企業部門

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|--------------------|----------|------------|-----------------|----------|------------|--------------|-----------|-------------|---------|-----------|------------|-------|----------|------------|---|--|
| 企業活動 | 一段と弱含み | 基調判断の前月との比較 | ↘ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 水準評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>現状 企業の生産活動は、一段と弱含み。 9月の鉱工業生産指数は、前年比 7.2%と7か月連続の低下(図表9)。業種別にみると、輸送機械(同+7.3%)が2か月連続で上昇したものの、電子部品・デバイス(同 18.2%)が10か月連続、化学(同 7.6%)が5か月連続、汎用・生産用・業務用機械(同 7.5%)が2か月連続で低下。</p> <p>見通し 先行き生産は、弱含みが続く見通し。 電子部品・デバイスについては、スマートフォン等で一部底入れ感もみられるものの本格的な需要回復には未だ至らず、当面弱含んで推移する見通し。なお、5G向けの投資加速に伴い徐々に持ち直す予想。 輸送機械は、自動車輸出の好調が続き底堅く推移しているものの、県内に工場がある大手自動車メーカーにおいて、新型車の不具合により来年1月まで生産を停止することから、増加傾向に歯止めがかかる可能性も。 汎用・生産用・業務用機械は、中国向け受注の減少を背景にマイナス基調で推移する見通し。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>9月 鉱工業生産指数 < 2015年=100 ></p> <table border="1"> <tr> <td>104.0</td> <td>前年比 7.2%</td> <td>(7か月連続の低下)</td> </tr> <tr> <td>・汎用・生産用・業務用機械工業</td> <td>前年比 7.5%</td> <td>(2か月連続の低下)</td> </tr> <tr> <td>・電子部品・デバイス工業</td> <td>前年比 18.2%</td> <td>(10か月連続の低下)</td> </tr> <tr> <td>・輸送機械工業</td> <td>前年比 +7.3%</td> <td>(2か月連続の上昇)</td> </tr> <tr> <td>・化学工業</td> <td>前年比 7.6%</td> <td>(5か月連続の低下)</td> </tr> </table> | | 104.0 | 前年比 7.2% | (7か月連続の低下) | ・汎用・生産用・業務用機械工業 | 前年比 7.5% | (2か月連続の低下) | ・電子部品・デバイス工業 | 前年比 18.2% | (10か月連続の低下) | ・輸送機械工業 | 前年比 +7.3% | (2か月連続の上昇) | ・化学工業 | 前年比 7.6% | (5か月連続の低下) | <p>図表9 鉱工業生産指数 < 前年比 ></p> | |
| 104.0 | 前年比 7.2% | (7か月連続の低下) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・汎用・生産用・業務用機械工業 | 前年比 7.5% | (2か月連続の低下) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・電子部品・デバイス工業 | 前年比 18.2% | (10か月連続の低下) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・輸送機械工業 | 前年比 +7.3% | (2か月連続の上昇) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・化学工業 | 前年比 7.6% | (5か月連続の低下) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(資料) 三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

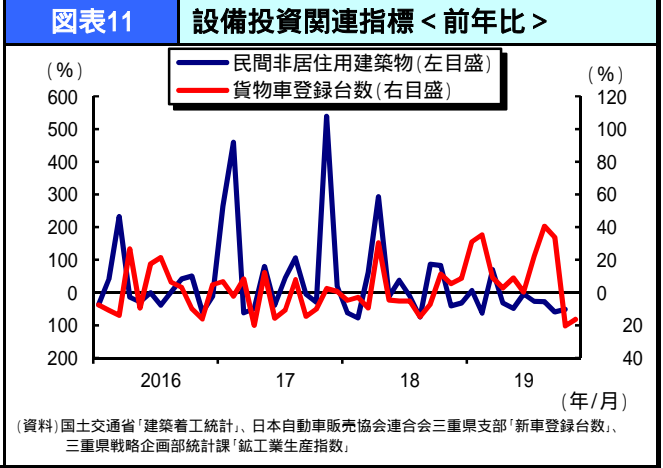
| | | | | | | | | | |
|---|-------------|--------------------|--------|------------|-------------|------------|------------|--|--|
| 企業倒産 | 小康状態 | 基調判断の前月との比較 | ⇒ | | | | | | |
| | | 水準評価 | | | | | | | |
| <p>現状 企業倒産は、小康状態。 11月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は6件(前年比 3件)と前年比で2か月振りの減少。負債総額も415百万円(同 257百万円)と、2か月振りの減少(図表10)。</p> <p>見通し 県内製造業の極端な業況悪化は現状では避けられており小康状態が保たれているものの、消費増税により個人消費の冷え込みが強まる懸念も払しょくできない。今後倒産を加速させる要因は多く、増勢を加速させる可能性も。</p> | | | | | | | | | |
| <p>11月 企業倒産</p> <table border="1"> <tr> <td>倒産件数 6件</td> <td>前年比 3件</td> <td>(2か月振りの減少)</td> </tr> <tr> <td>負債総額 415百万円</td> <td>前年比 257百万円</td> <td>(2か月振りの減少)</td> </tr> </table> | | 倒産件数 6件 | 前年比 3件 | (2か月振りの減少) | 負債総額 415百万円 | 前年比 257百万円 | (2か月振りの減少) | <p>図表10 倒産件数・負債総額 < 負債総額1,000万円以上 ></p> | |
| 倒産件数 6件 | 前年比 3件 | (2か月振りの減少) | | | | | | | |
| 負債総額 415百万円 | 前年比 257百万円 | (2か月振りの減少) | | | | | | | |
| <p>(資料) ㈱東京商工リサーチ津支店</p> | | | | | | | | | |

| | | | |
|------|----|-------------|---|
| 設備投資 | 一服 | 基調判断の前月との比較 | ⇒ |
| | | 水準評価 | |

現状
 企業の設備投資は、一服。
 10月の非居住用建築物着工床面積は、51千㎡(前年比 51.1%)と前年比で7か月連続の減少。11月の貨物車登録台数(除く軽)も、394台(同 16.3%)と前年比で2か月連続の減少(図表11)。

見通し
 企業の景況感の悪化が続くなか投資を先送りしている企業が見られるものの、高速道路網の整備効果などにより、県内外企業の生産設備の新增設が加速すると予想され、緩やかに持ち直す見通し。
 第一工業製薬(京都市)は四日市市の霞工場に5G関連製品向けの基盤材料の専用プラントを新設するため、約48億円を投じるとメディアで報じられたほか、富士物流(東京都港区)は事業拡大と物流効率化への対応のため約17億円を投じ、四日市市の「三重物流センターC棟」を建て替えると発表。

| | | | |
|-------------------------|-----|-------|------------|
| 10月 非居住用建築物着工床面積 | | | |
| 51千㎡ | 前年比 | 51.1% | (7か月連続の減少) |
| 11月 貨物車登録台数 | | | |
| 394台 | 前年比 | 16.3% | (2か月連続の減少) |



4. 個別部門の動向: 海外部門

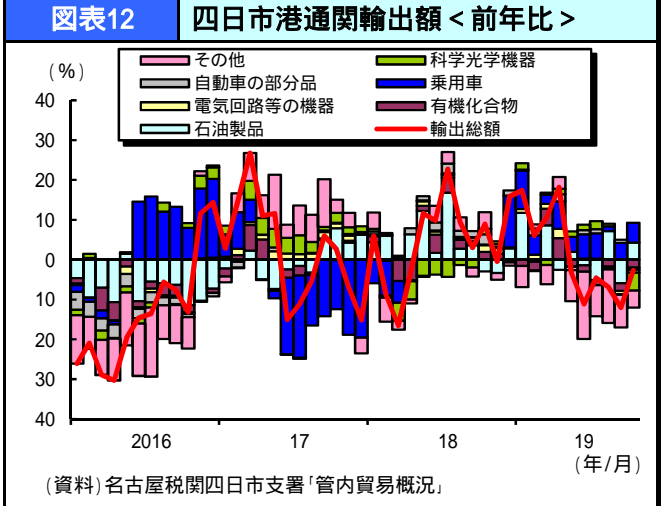
| | | | |
|----|-----|-------------|---|
| 輸出 | 弱含み | 基調判断の前月との比較 | ⇒ |
| | | 水準評価 | |

現状
 輸出は、弱含み。
 10月の四日市港通関輸出額は、705億円(前年比 2.7%)となり、前年比で6か月連続の減少(図表12)。品目別にみると、乗用車(同 +1,669.4%)の大幅な増加が続いたほか、石油製品(同 +59.8%)も増加した一方、科学光学機器(同 77.3%)や有機化合物(同 23.2%)、ゴム製品(同 30.7%)などが減少。

見通し
 世界経済の減速や米中貿易摩擦の長期化を背景に世界の貿易量が減少するなか、米中両国への輸出が大幅に落ち込んでいるほか、原油相場の低迷に伴い有機化合物といった化学製品も減速傾向で推移しており、先行きも基本的に弱い動きで推移する見通し。

10月 四日市港通関輸出額

| | | | |
|----------|------|------|------------|
| 705億円 | 前年比 | 2.7% | (6か月連続の減少) |
| 石油製品 | 83億円 | 前年比 | +59.8% |
| 有機化合物 | 48億円 | 前年比 | 23.2% |
| 電気回路等の機器 | 71億円 | 前年比 | 5.4% |
| 乗用車 | 39億円 | 前年比 | +1,669.4% |
| 自動車の部分品 | 58億円 | 前年比 | 7.8% |
| 科学光学機器 | 10億円 | 前年比 | 77.3% |



5. 個別部門の動向: 公共部門

| 公共投資 | | 持ち直し | | 基調判断の前月との比較 | | → | | | | | | | | | |
|--|------|-----------|------------|-------------|------|-----------|------------|----------|------|-----------|------------|---|--|--|--|
| | | | | 水準評価 | | | | | | | | | | | |
| <p>現状 公共投資は、持ち直し。 11月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比+3.9%と3か月連続の増加。請負金額も同+3.0%と3か月連続の増加(図表13)。県土整備部において取扱件数が増加したほか、松阪市において「塩浜排水区沖スポンプ場増設」の大型工事があった影響によるもの。</p> <p>見通し 政府が決めた2020年度の予算案において、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に、1兆1,432億円を計上するなど、引き続き防災関連の工事が行われるとみられるほか、今年度に新規事業化された国道42号「紀宝熊野道路」の整備や一般国道421号の改良工事など道路関連もみられ、緩やかに持ち直す見通し。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>11月 公共投資</p> <table border="1"> <tr> <td>公共工事請負件数</td> <td>370件</td> <td>前年比 +3.9%</td> <td>(3か月連続の増加)</td> </tr> <tr> <td>公共工事請負金額</td> <td>92億円</td> <td>前年比 +3.0%</td> <td>(3か月連続の増加)</td> </tr> </table> | | | | 公共工事請負件数 | 370件 | 前年比 +3.9% | (3か月連続の増加) | 公共工事請負金額 | 92億円 | 前年比 +3.0% | (3か月連続の増加) | <p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料) 東日本建設業保証(株)三重支店 (年/月)</p> | | | |
| 公共工事請負件数 | 370件 | 前年比 +3.9% | (3か月連続の増加) | | | | | | | | | | | | |
| 公共工事請負金額 | 92億円 | 前年比 +3.0% | (3か月連続の増加) | | | | | | | | | | | | |

6. 個別部門の動向: その他

| 物価 | | 伸び悩み | | 基調判断の前月との比較 | | → | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------|-------------|--|-------------|-----------|-------|--------------|-----------|------------|-----|-----------|------------|--------|----------|-------------|--------|----------|------------|-------|-----------|-------------|--|--|--|--|
| | | | | 水準評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>現状 物価は、伸び悩み。 10月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比±0.0%と横這い(図表14)。教養娯楽(同+2.6%)や生鮮食品を除く食料(同+0.7%)が上昇した一方、幼児教育・保育の無償化を受けて教育(同-6.7%)が下落したほか、携帯電話大手各社が通信料を値下げした影響も引き続き表れ、交通・通信(同-0.8%)も下落。</p> <p>見通し 前回増税時(2014年4月)の津市消費者物価(生鮮食品を除く)の上昇率は+2.7%と大幅に上昇したものの、今回の消費増税では、増税幅が2%と前回より小さいことに加え、軽減税率の導入、幼児教育・保育の無償化も物価を押し下げる方向に働き、伸びは限定的に。先行きもエネルギー価格の下落や幼児教育無償化等による押し下げ効果を受けて、低水準での推移が続く見通し。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>10月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2015年=100></p> <table border="1"> <tr> <td>101.7</td> <td>前年比 ±0.0%</td> <td>(横這い)</td> </tr> <tr> <td>・食料(生鮮食品を除く)</td> <td>前年比 +0.7%</td> <td>(2か月振りの上昇)</td> </tr> <tr> <td>・住居</td> <td>前年比 +0.3%</td> <td>(5か月振りの上昇)</td> </tr> <tr> <td>・光熱・水道</td> <td>前年比 1.1%</td> <td>(30か月振りの下落)</td> </tr> <tr> <td>・交通・通信</td> <td>前年比 0.8%</td> <td>(5か月連続の下落)</td> </tr> <tr> <td>・教養娯楽</td> <td>前年比 +2.6%</td> <td>(17か月連続の上昇)</td> </tr> </table> | | | | 101.7 | 前年比 ±0.0% | (横這い) | ・食料(生鮮食品を除く) | 前年比 +0.7% | (2か月振りの上昇) | ・住居 | 前年比 +0.3% | (5か月振りの上昇) | ・光熱・水道 | 前年比 1.1% | (30か月振りの下落) | ・交通・通信 | 前年比 0.8% | (5か月連続の下落) | ・教養娯楽 | 前年比 +2.6% | (17か月連続の上昇) | <p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料) 総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p> | | | |
| 101.7 | 前年比 ±0.0% | (横這い) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・食料(生鮮食品を除く) | 前年比 +0.7% | (2か月振りの上昇) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・住居 | 前年比 +0.3% | (5か月振りの上昇) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・光熱・水道 | 前年比 1.1% | (30か月振りの下落) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・交通・通信 | 前年比 0.8% | (5か月連続の下落) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・教養娯楽 | 前年比 +2.6% | (17か月連続の上昇) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



1. 志摩市観光協会が訪日外国人向けの英語ネットサービスが提供開始

11月15日、三重県と㈱ピースパーク(東京都渋谷区)は、訪日外国人向けAIチャットコンシェルジュ「Bebot(ビーボット)」のサービスを、志摩市観光協会の英語版ウェブサイト上で提供開始。訪日外国人がスマートフォンを通じて日本での旅行に必要な主要情報を取得することができる。「Bebot」は、毎日4万人以上の訪日客が利用する、AIによるチャットコンシェルジュサービス。施設に関する細かな問合せ、周辺の観光スポット、外国人ゲストの質問やリクエストに対して、人間スタッフに変わり、多言語で24時間365日リアルタイムに対応することが可能。利用の際はアプリなどのダウンロードは一切不要で、スマートフォンのブラウザ画面を通じて「Bebot」を利用できる。

2. 2020年秋に多気町に開業する滞在型レジャー複合施設の名称を「VISON」と発表

11月28日、多気町に2020年秋に滞在型レジャー複合施設を開業する「三重故郷創生プロジェクト」は、施設の名称を「VISON(ヴィソン)」にすると発表。「美しい村」にちなんで命名。「癒・食・知」をテーマに、東京ディズニーランド2個分の約119haの敷地に、ホテルや産直市場、薬草の温泉施設、子どもが遊べるウッドプレイエリアなどが設けられる。施設はスマートインターチェンジで伊勢自動車道と直結し、高速を使えば伊勢神宮から20分ほどで、参拝客も利用しやすい。年間800万人の観光客を見込む。

3. 鈴鹿医療科学大学が緩和ケア専門の付属病院を開設すると発表

11月29日、鈴鹿医療科学大学は、同大学白子キャンパス内に県内初の緩和ケア専門の大学付属病院「桜の森病院」を開設すると発表。医学部を持たない医療系大学が付属病院を持つのは全国で4校目で、完全独立型の付属緩和ケア病院を開設するのは全国初。計画によると、病院は約2万2,600㎡の敷地内にRC平屋建て約3,370㎡の病棟を建設。全室個室の緩和ケア病床を25床設け、緩和ケアに特化した外来と内科を設置する。2020年3月に工事着工し、2021年4月に開院予定。事業費は10億～20億円になる見込み。

4. 東員町スポーツ公園陸上競技場をサッカーJ3規格スタジアムへ改修

11月29日、東員町スポーツ公園陸上競技場を、サッカーのリーグ3部(J3)基準を満たすスタジアムに整備するための改修工事が12月に着工することが決まった。県内初のリーグ入りを目指すサッカーJFLの「ヴィアティン三重」などを運営するヴィアティン三重ファミリークラブが競技場の指定管理者に決まったことを受けて、東員町などが発表。JFLからJ3への昇格条件の1つに、5,000人以上が入場可能なスタジアム所有がある。芝生の拡張をはじめ、テレビ中継室の設置、更衣室やトイレの増設を行う。工期は12月9日から2020年3月初旬を予定し、費用の約2億8,000万円は同クラブが負担。スポンサー企業のほか、ネーミングライツ(命名権)、クラウドファンディング型の資金調達を検討している。

景 気 指 標

三十三総研
2019/12/26

< 三重県 >

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

| | 2017年 | 2018年 | 2018年 | | | | 2019年 | | | | 2019年 | | | |
|-------------------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|---------|---------|--|--|--|
| | | | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | | | |
| 大型小売店販売額(全店) | (1.1) | (0.8) | (1.5) | (1.5) | (0.2) | (2.5) | (4.2) | (0.1) | (12.3) | (1.9) | | | | |
| 同(既存店) | (2.0) | (0.1) | (0.0) | (3.6) | (2.3) | (0.4) | (6.1) | (1.6) | (7.1) | (5.6) | | | | |
| 新車販売台数(軽を除く、台) | 60,466 | 60,175 | 14,484 | 18,272 | 13,282 | 15,884 | 5,190 | 4,343 | 6,351 | 3,414 | 4,010 | | | |
| うち乗用車販売台数(台) | (3.2) | (0.5) | (7.9) | (0.8) | (2.0) | (9.2) | (5.5) | (9.2) | (12.5) | (28.7) | (21.7) | | | |
| 新車軽自動車販売台数(台) | 53,382 | 53,322 | 12,739 | 16,040 | 11,646 | 13,685 | 4,474 | 3,663 | 5,548 | 2,993 | 3,519 | | | |
| うち乗用車販売台数(台) | (3.9) | (0.1) | (8.0) | (1.6) | (2.0) | (6.3) | (2.5) | (4.7) | (10.8) | (29.7) | (22.0) | | | |
| 新設住宅着工戸数(戸) | 40,027 | 41,157 | 9,536 | 12,304 | 9,884 | 10,828 | 3,491 | 3,119 | 4,218 | 2,460 | 3,127 | | | |
| うち乗用車販売台数(台) | (7.7) | (2.8) | (2.3) | (3.2) | (8.1) | (10.8) | (5.8) | (14.0) | (12.9) | (27.7) | (7.0) | | | |
| 新設住宅着工戸数(戸) | 32,011 | 32,501 | 7,184 | 9,828 | 7,745 | 8,672 | 2,774 | 2,521 | 3,377 | 1,908 | 2,378 | | | |
| 県内施設延べ宿泊者数(千人泊) | (8.1) | (1.5) | (2.1) | (5.8) | (7.3) | (13.2) | (6.7) | (19.0) | (14.8) | (26.6) | (2.2) | | | |
| 県内施設延べ宿泊者数(千人泊) | 10,347 | 10,616 | 2,680 | 2,151 | 2,770 | 2,598 | 819 | 747 | 1,032 | 807 | | | | |
| 県内施設延べ宿泊者数(千人泊) | (1.9) | (2.6) | (2.8) | (0.1) | (2.7) | (15.8) | (10.3) | (34.6) | (0.3) | (3.4) | | | | |
| 有効求人倍率(季調済) | 8.319 | 8.901 | 2,267 | 2,035 | 2,166 | 2,509 | 791 | 1,078 | 640 | | | | | |
| 新規求人倍率(季調済) | (10.6) | (7.0) | (9.1) | (0.8) | (11.5) | (5.0) | (10.8) | (6.2) | (10.0) | | | | | |
| 有効求人倍率(季調済) | 1.60 | 1.71 | 1.71 | 1.74 | 1.71 | 1.64 | 1.68 | 1.64 | 1.60 | 1.58 | | | | |
| 新規求人倍率(季調済) | 2.25 | 2.43 | 2.44 | 2.47 | 2.44 | 2.33 | 2.47 | 2.36 | 2.17 | 2.29 | | | | |
| 新規求人数(学卒・パート除く、人) | 88,929 | 91,910 | 22,647 | 23,780 | 22,032 | 21,239 | 7,573 | 6,862 | 6,804 | 7,946 | | | | |
| 名目賃金指数(調査産業計) | (5.0) | (3.4) | (1.9) | (1.8) | (1.7) | (6.1) | (0.2) | (10.1) | (8.5) | (4.5) | | | | |
| 実質賃金指数(同) | (0.8) | (0.6) | (0.7) | (0.0) | (0.1) | (2.8) | (1.4) | (6.1) | (1.6) | | | | | |
| 所定外労働時間(同) | (0.3) | (1.8) | (1.9) | (0.4) | (0.6) | (3.1) | (1.5) | (6.6) | (2.0) | | | | | |
| 常用雇用指数(同) | (8.7) | (5.2) | (7.8) | (0.6) | (2.2) | (0.0) | (0.9) | (0.9) | (0.0) | | | | | |
| 鉱工業生産指数 | (0.8) | (1.0) | (0.2) | (0.5) | (0.4) | (0.1) | (0.3) | (0.1) | (0.0) | | | | | |
| 生産者製品在庫指数 | (2.1) | (3.6) | (5.4) | (2.3) | (2.3) | (5.7) | (7.5) | (1.8) | (7.2) | | | | | |
| 生産者製品在庫指数 | - | - | < 3.8> | < 3.9> | < 1.8> | < 4.0> | < 4.3> | < 4.8> | < 7.4> | | | | | |
| 企業倒産件数(件) | (0.9) | (2.5) | (1.2) | (1.0) | (1.7) | (4.0) | (4.3) | (7.6) | (0.2) | | | | | |
| 非居住用建築物着工床面積(千㎡) | - | - | < 1.5> | < 0.7> | < 0.8> | < 4.0> | < 0.2> | < 3.0> | < 1.1> | | | | | |
| 企業倒産件数(件) | 100 | 67 | 22 | 12 | 21 | 12 | 6 | 3 | 3 | 9 | 6 | | | |
| (前年同期(月)比)(件) | (24) | (33) | (18) | (0) | (5) | (5) | (3) | (4) | (4) | (1) | (3) | | | |
| 非居住用建築物着工床面積(千㎡) | 1,283 | 925 | 284 | 166 | 169 | 129 | 43 | 32 | 53 | 51 | | | | |
| 県内外国貿易 純輸出(百万円) | (73.5) | (27.9) | (18.2) | (1.3) | (29.9) | (44.6) | (26.7) | (28.1) | (58.7) | (51.1) | | | | |
| 輸出(百万円) | 622,476 | 934,412 | 256,926 | 186,996 | 198,697 | 163,945 | 57,788 | 41,833 | 64,324 | 55,246 | | | | |
| 四日市港 輸出(百万円) | 803,912 | 858,926 | 221,398 | 238,942 | 215,361 | 235,031 | 76,901 | 89,387 | 68,743 | 75,587 | | | | |
| 輸入(百万円) | (3.2) | (6.8) | (8.3) | (15.0) | (3.6) | (5.8) | (4.6) | (26.5) | (11.7) | (4.3) | | | | |
| 輸入(百万円) | 802,602 | 836,407 | 221,256 | 223,322 | 201,636 | 197,888 | 70,202 | 65,787 | 61,899 | 70,496 | | | | |
| 公共工事請負金額(億円) | (0.8) | (4.2) | (8.3) | (11.4) | (0.7) | (7.7) | (4.5) | (6.9) | (12.0) | (2.7) | | | | |
| 津市消費者物価指数 | 1,426,388 | 1,793,338 | 478,324 | 425,938 | 414,057 | 398,976 | 134,689 | 131,220 | 133,067 | 130,833 | | | | |
| 同(除く生鮮) | (20.1) | (25.7) | (22.9) | (0.4) | (0.1) | (15.7) | (9.3) | (31.0) | (126200.0) | (11.3) | | | | |
| 公共工事請負金額(億円) | 2,111 | 2,170 | 382 | 329 | 516 | 585 | 234 | 138 | 213 | 189 | 92 | | | |
| 津市消費者物価指数 | (7.9) | (2.8) | (9.8) | (8.3) | (40.5) | (5.3) | (11.3) | (30.7) | (2.2) | (11.8) | (3.0) | | | |
| 同(除く生鮮) | (0.3) | (1.2) | (1.2) | (0.3) | (0.7) | (0.3) | (0.1) | (0.4) | (0.4) | (0.2) | | | | |
| 同(除く生鮮) | (0.5) | (0.9) | (1.1) | (0.7) | (0.8) | (0.0) | (0.2) | (0.0) | (0.3) | (0.0) | | | | |

< 東海3県(三重・愛知・岐阜) >

| | 2017年 | 2018年 | 2018年 | | | | 2019年 | | | | 2019年 | | | |
|----------------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|-------|--|--|--|
| | | | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | | | |
| 大型小売店販売額(全店) | (0.5) | (1.2) | (1.1) | (2.4) | (1.6) | (2.3) | (4.3) | (0.5) | (11.5) | (5.5) | | | | |
| 同(既存店) | (1.2) | (0.4) | (1.2) | (2.2) | (0.8) | (1.6) | (4.8) | (0.3) | (10.8) | (6.0) | | | | |
| 新設住宅着工戸数(戸) | 85,365 | 88,848 | 23,157 | 20,876 | 23,345 | 21,933 | 7,801 | 6,878 | 7,254 | 7,364 | | | | |
| 有効求人倍率(季調済) | (2.3) | (4.1) | (2.6) | (11.8) | (1.5) | (8.6) | (0.4) | (18.9) | (6.5) | (4.5) | | | | |
| 新規求人倍率(季調済) | 1.78 | 1.92 | 1.93 | 1.95 | 1.94 | 1.88 | 1.91 | 1.90 | 1.84 | 1.84 | | | | |
| 鉱工業生産指数 | 2.65 | 2.88 | 2.93 | 2.97 | 2.97 | 2.81 | 2.88 | 2.87 | 2.70 | 2.90 | | | | |
| 企業倒産件数(件) | (5.3) | (0.2) | (2.4) | (1.0) | (0.9) | (0.6) | (1.8) | (3.3) | (2.7) | (7.1) | | | | |
| 域内外国貿易 純輸出(億円) | - | - | < 0.6> | < 0.8> | < 2.7> | < 2.6> | < 1.1> | < 1.0> | < 2.1> | < 4.2> | | | | |
| 域内外国貿易 純輸出(億円) | 767 | 833 | 211 | 172 | 184 | 201 | 81 | 56 | 64 | 77 | 62 | | | |
| 域内外国貿易 純輸出(億円) | (31) | (66) | (11) | (35) | (31) | (1) | (12) | (8) | (3) | (12) | (9) | | | |
| 輸出(億円) | 80,064 | 79,647 | 19,666 | 20,698 | 20,276 | 19,419 | 7,399 | 5,907 | 6,113 | 7,380 | | | | |
| 輸入(億円) | 161,759 | 172,027 | 44,466 | 43,327 | 42,561 | 41,525 | 14,849 | 13,114 | 13,562 | 14,333 | | | | |
| 輸入(億円) | (8.2) | (6.3) | (1.4) | (3.5) | (0.5) | (3.3) | (3.2) | (6.2) | (6.9) | (4.5) | | | | |
| 輸入(億円) | 81,695 | 92,379 | 24,800 | 22,629 | 22,285 | 22,105 | 7,450 | 7,207 | 7,449 | 6,954 | | | | |
| 輸入(億円) | (10.9) | (13.1) | (15.7) | (2.5) | (3.3) | (7.7) | (3.6) | (12.2) | (7.0) | (18.1) | | | | |

: 各指標における直近の数値